



ありあけ

2022(令和4)年
3月1日(火)

アンラーン(unlearn)のすすめ

校長 前嶋 正秀

12月号で、「当たり前を疑う」ことについて書かせていただきましたが、今号はこのことに関連して、「アンラーン(unlearn)」という行為について述べたいと思います。

白状しますと、お恥ずかしい限りなのですが私は初めてこの言葉を耳にした時、「learn(学ぶ)」という単語に否定を表す接頭辞の「un」がついていることから、辞書で定義されているような、「学んだことを忘れる」という意味ぐらいに考えていました。

しかしどうやらそのような意味だけではなさそうな気がします。そこでこの言葉に関する色々な情報を集めるうちに、アンラーンという言葉の意味だけでなく、unlearnすることの必要性や効果についても少しずつ理解するようになりました。

ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、アンラーンとは「今まで学んできたことを一度忘れ、学び直す」というような意味です。私たちはこれまでたくさんのことを、ある時は経験から、またある時は学習から学び、知識や理論、成功体験などを得てきました。そのこと自体は非常に価値のあるものです。しかし、その得たものに固執することで、自分の思考のワクの中だけで物事をとらえがちになる、ということも事実です。だからこそ、他人の考え方や価値観に違和感を覚えたり、それは間違っている、と思ってしまうわけです。

これからの不確かな、先の見えない時代に生きるには、自分の価値観や考え方を一旦脇に置いて学び直す、まさに自分にとっての「当たり前」を疑うということですね。これが求められているのだと思います。多様な考え方や価値観を受け入れる、ダイバーシティという言葉がありますが、アンラーンはこのダイバーシティの概念とも共通した要素があると言えるのではないのでしょうか。

本校では中学のサイエンスや高校のプロジェクトをはじめ、各教科の学習においても「振り返り」を大切にしています。そこでは友だちや、時には教師からのフィードバックを受けます。その時に、自分には気づかなかった視点を得られることはごく普通のことです。他人にも人それぞれの価値観や考え方がある。これを受け入れて自分の中に取り込むことは、アンラーンと言ってもいいと思います。新たな気づきを得ることで、自分の考え方が広がったり深まったりします。時には自己の価値観が変容することさえあるかもしれません。

今まで述べてきたことは、決して自分自身の考え方や価値観を捨てる、ということではありません。自分の考えや価値観は大切に持っていていいのです。ただそこに固執しすぎることは、視野が狭くなったり、思考の深まりを妨げたりすることになります。実は私自身にもそのような傾向があります。私と同じように感じている人、一旦こだわりを手放し、学び直してみませんか。

2月のご報告

本校ホームページ「最新情報」ページをご覧ください。

【高校新クラス】2年A組パナソニッククリエイティブミュージアム「Akerue」ワークショップ

【高校新クラスの日常】第40号 IAインタビュー企画!

【高2 トラディショナルクラス】進学指導の様子

【マーチングバンド部】第5回カラーガード全国大会

他

*今後の予定については、急な変更の可能性もありますので、学校からのメール連絡等をよくご確認ください。

次回は4/1(金)発行予定です。(広報部)